

☆放課後子ども教室☆

秋の日は釣瓶(つるべ)落としと言いますが、日に日に日没の時間が早まっていることを実感します。朝晩の冷え込みだけではなく、日中も上着が必要になってきました。そんな中でも半袖姿で帰ってくる子どもたち。やっぱり子どもは風の子だと思いつつ同時に、風邪の子にならないことを願うばかりです。

9月のプログラムでは、工作用の段ボールを使って写真を飾れるアートフレームを作ったり、チームで協力して謎を解く宝探しなどのプログラムを行いました。キラキラしたビーズやスパンコール、可愛いテープやシールが子どもたちは大好きです。あれこれ組み合わせを考えて、とても素敵な作品に仕上がりました。謎解き宝探しは、写真を手がかりにミッション(課題)が書かれたカードを探し出し、ミッションを次々に解いて最後には宝物がもらえるというゲームです。子どもたちは3~4人1組に分かれ、役割分担をしたり知恵を出し合いながら謎解きに挑戦していました。10月前半のプログラムでは、ミニバレーや放課後ミニ実験として、“もし、自分が植物だったとしたら、どんな種を作って、より遠くへ種を飛ばせるか”を考えて、種の模型を作る活動を行いました。飛行機のように翼がある形のもの、紙風船に重りを入れて転がるようにしたものや、細く切った紙を合わせてフワフワと飛んでいくもの。学校で学習した内容と、実際に見たことのある綿毛やドングリなどの植物の種を参考に、子どもたちの発想力が光る種模型がたくさんできました。作ったものを飛ばしてみると、予想通りの飛び方をしたという子もいれば、予想とはまったく違う動きをしたという子もいました。子どもたちが頭の中に描いたイメージと、実際に目の前で起きたことの違いがなぜ起こるのか、できるだけイメージに近づけるためにはどうすれば良いのか。自分が作った模型を手に、工夫をする様子がとても印象的でした。



放課後特別教室として9月30日(土)に「稲刈り体験プログラム」を、10月8日(日)に「本気の厚真町PRプログラム」を開催しました。5月に田植えをさせてもらった田んぼにたわわに実って頭(こうべ)を垂れる稲穂たち。雨続きの天気で足場が悪く、どろんこだらけになりましたが、子どもも大人も一緒になって最後まで刈り取り作業を頑張りました。厚真町のPRプログラムは、毎年、苫小牧市内で開催されているあつま新鮮組主催の『特産市』でお手伝い。特産品のジンギスカンやおふくろ味噌、厚真産の新鮮野菜などをお客さんに販売しました。新鮮組のみなさんからも立派な戦力として期待されている子どもたちです。お客さんや地域の青年層のみなさんからもらった“ありがとう”は、子どもたちの自信につながっていると思います。ご協力をいただいたみなさんに心から感謝いたします。

